

アオモジ——倒れながらも満開の花

今年2月の大雪で倒れたアオモジ（青文字）が花を沢山開きました。祐泉寺から馬の背に登る途中です。

この木について、植物に詳しい御宮知さんに種の同定を依頼していたところ、直接現場を訪れて、次の返事（抜粋）が返ってきました。

「アオモジに間違い有りません。アオモジは二上山界限では、点々と見ることができます。ふたかみパークでもたくさんありますね。県内では、生駒山地（特に平群周辺）・矢田丘陵・奈良公園と周辺・二上山

下 倒れたアオモジ（二上山・澤木さん撮影）



上 アオモジの花 澤木仁さん撮影

から葛城山あたりに分布しています。

花木として他県から導入された（はじめは平群のようです）のが、野生化して広がっています。これ（アオモジ）は陽樹で、明るいところが好きなので、伐採後などに入りやすいですが、他の木が密生しているところでは入り込めないようです。」

さて、クスノキ科には他に「クロモジ＝黒文字」、「シロモジ＝白文字」というよく似た植物が有ります。名（和名）の由来は木肌に点々と現れる黒い斑点を「文字」にみなして「クロモジ」の名が付けられ、よく似るが枝の木肌が緑がかっている種に

「アオモジ」の名を、茶褐色の種に「シロモジ」と付けたとのこと。それぞれ別種です。クロモジとアオモジは共に香りが良いので、和菓子用の高級爪楊枝の材料とされています。

ハイキング講座「登山の基礎とセルフレスキュー」が開かれます。

4月18日午後2時から。健生荘2階多目的室で。講師は道中純一さん。資料代200円。お申し込みは健生会友の会（0745-22-2989）まで。

歴史講座9回目

「大和の中世史ー4」が開かれました

3月24日（日）健生荘にて、歴史講座「大和の中世史ー4ー春日若宮おん祭と大和六党」が開かれ、42名が受講しました。

講師の吉井敏幸天理大学教授は春日若宮おん祭が興福寺の大和国支配の手段だったこと、その祭礼の神事である流鏝馬（やぶさめ）は大和の主要武士団がローテーションを組んで務めるなど、興福寺による武士団の支配手段であったことを、史料に基づきながら、具体的に解明しました。

この回でも、中世全体を貫く興福寺による大和支配の実態が、その元での主要武士団（六党）の形成、発展などと共に明らかにされ、興味深く聴きました。



登山道修復のカンパ 有難うございます

二上山では多くの有志によるゴミ拾い、登山道修復などが日常的に行われています。

この山には毎日多くの人々が登っており、その中には高齢者の方々も多いのです。戦前、戦中、戦後の大混乱期に懸命に働いて家族を養い、社会に貢献されてきた皆さんが、高齢になつてなお、果敢に山歩きに挑戦されている姿には深く感服し、この方々が安心して山歩きを楽しめるように、危険箇所は修理しておきたいのです。二上山は低山なれど急峻で、雨、風、雪などで土砂崩れが起き、倒木が道を塞ぎます。勿論修復は主要な登山道に限ってのことで、いたずらに新しい道や枝道を造るのには賛成できません。

これらの修復作業は、ボランティアで行われていますが、道具や資材は必要で、この度有志による募金と呼ばひかけられ、沢山の方々から貴重な浄財が寄せられました。また

下 **二上の覗きから見た昇陽**（澤木さん撮影） 奇特な方から番線も寄付して頂きました。

私もそのカンパで購入された鋸と鉋を預り、番線と共に大事に使わせてもらっています。みなさん有難うございました。

